

研究所だより

第336号
2014年1月7日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

<迎春・2014年>

謹んで新春のご祝詞を
申し上げます。
本年も宜しくお願い致します。



<「ふりかえり」から「来年度」に向けた年間計画を>

～不登校予防・支援のための年間計画作成について～

不登校に対する取り組みは、次の3点を同時に進めていくことが必要です。

- ①再登校 ②安定登校 ③予防・早期対応

この中でも、特に大切な取り組みは、③の予防・早期対応であるということはいままでありません。予防の中心は、学級経営であり、毎日毎時間のよく分かる楽しい授業です。早期対応の中心は、日常観察、面接、検査等による取り組みです。特に、学校3大ストレスと呼ばれる「①友人との関係 ②学習の定着 ③先生との関係」をどのように向上させていくのかが大きな鍵を握っています。

そこで、3月末までにしておくこと、そして、来年度の不登校予防・支援のための年間計画作成に向けたポイントと作成例についてお知らせ致します。

(1) 子どもとの信頼関係を作るチャンスです。

年度末は、子ども達と保護者との信頼関係を再構築するチャンスです。休んでいた子ども達の中には再び登校を始めたり、学校に来る日数が増加する子ども達もいます。その子ども達には、学校に来ているときの関わりを大切にします。学校を休んでいる生徒には、継続的な家庭訪問や保護者面接等の関わりの中で、本年度の頑張りを一緒に振り返ることが大切です。自己肯定感が下がっている子どもが多いので、小さくても頑張ったことを認め、励ましていきます。子どもや保護者の現状や願いを受けて、年度末から春季休業中の支援の仕方、始業式から始める年度当初の受け入れについて確認していくことが必要です。

(2) 学校での取り組み、1年間の振り返りを

3月末までにしておくことは、本年度の取り組みの成果と課題を正確に振り返ることです。

【振り返りのポイント】

- ①教職員一人ひとりの児童生徒・学級集団に対する理解力の向上
 - 児童生徒・学級集団の理解に関わる研修・職員会等での共通理解
 - Q-Uの活用状況（集計結果の分析・考察からの取り組み）
- ②予防の取り組み
 - 人間関係作り・ソーシャルスキルの獲得
 - 楽しく分かる授業
- ③不登校・不登校傾向にある児童生徒の現状
 - 欠席日数・欠席状況
 - 支援状況（家庭訪問・別室登校・適応指導教室の支援等）
- ④校内支援体制やチーム支援体制の現状
 - 校内支援委員会の設置と早期発見・早期対応の体制作り
 - 支援のシステムと年間の支援サイクル
 - 具体的なチーム支援

⑤校内外での連携の現状

- 養護教諭・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
- 適応指導教室等の相談機関

平成26年度 不登校予防・支援のための年間計画例

学校名	担当者
平成25年度 長期欠席者数（ ）名	
①病気（ ）名 ②経済的理由（ ）名 ③不登校（ ）名 その他（ ）名	
平成25年度の成果と課題	
成果（例）	課題（例）
<ul style="list-style-type: none"> ・連続して欠席する生徒数が減少した ・日々の出席状況の把握をもとに、早期に家庭訪問し、対応することができた。 ・チーム支援会を実施することにより、役割を分担することができ、学級担任の負担が軽減された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心配される子どもに対しては、学級担任だけに任せず、不登校対策委員会やチーム支援会で、具体的対応を決める。 ・Q-Uの結果から、承認得点の低い子ども達への授業での声かけや支援の在り方を考える。
平成26年度 年間計画	
月	予防・支援のためのサイクル
4月	【組織職員会での共通理解】 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や学級集団を理解する手立てを確認する。人間関係作りと学級ルール作りをすべての教育活動を通して実施することを確認する。 ・校内支援委員会を定期的実施し、予防・支援について協議すること、ケースに応じて、支援チームを作り、役割分担し、具体的な支援を実施することを確認する。 ・構成的グループエンカウンター等の人間関係作りを実施する。 ・毎日の出席状況を把握し、早期に対応する。 ・各種行事の中で児童生徒と教員・児童生徒間の信頼関係作りをする。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回Q-Uアンケート分析検討会を実施する。 アンケート結果を分析・考察し、一人ひとりの生徒や学級集団の見立てを行い、具体的な対応を行う。また、学年や学校全体の状態を把握し、取り組みを進める。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会において、支援の必要な生徒一人ひとりの状態について共通理解を図る。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・心配される児童生徒については、夏季休業中に家庭訪問、学校での補習等を行い、教員や学校との関わりを深める。 ・7月末までの成果と課題を総括し、9月からの取り組みを計画する。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・構成的エンカウンターグループ等の人間関係作りを実施する。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回Q-Uアンケート分析検討会を実施する。 アンケート結果を分析・考察し、一人ひとりの生徒や学級集団の見立てを行い、具体的な対応を行う。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・12月末までの成果と課題を総括し、1月からの取り組みを計画する。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・構成的エンカウンターグループ等の人間関係作りを実施する。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末、特に3月に再登校する児童生徒が多いことから、関わりを深める。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の成果と課題を総括し、来年度の年間計画を作成する。 ・個別支援票（小6）を活用した小中連携を進める。

（高知県心の教育センターから引用）